

# 届け 世界の果てまでも

令和3年5月18日

No. 10

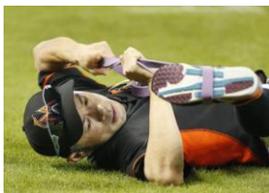
文責 校長 飯久保一男

## 積み重ねて徹底すること

子どもたちの主体性を育てることと、ものごとを徹底させることは相反することのように思うことがあるかもしれませんが、そうではありません。

学習においては「読み」「書き」「計算（昔はそろばんと言われていました）」が積み重ねて徹底することの基礎・基本にあたります。文字や文を読むこと、ひらがなやカタカナ・漢字を書くこと、四則計算ができることは基礎・基本となり、それがもととなって、様々な学習を積み重ねることができます。つまり、子どもたちの主体性を育てるためには、基礎・基本を確実に身に付けることが重要なのです。

※すぐに脱線するクセがあります。ご容赦ください。



イチローさん（イチロー選手？ イチローさんと書くのに違和感があります）が選手時代に、毎日、同じルーティンを繰り返したというのは有名です。毎朝、奥さんがつくったカレーを食べ、自分が定めたルーティンの通りの準備をしました。そして、毎日の練習を始めたのです。イチローさんにとっては当たり前のなのでしょうが、同じことをやろうとしても、できる人は少ないと思われます。脳はサボりたがりで、飽きっぽくできているもの（昨年度本通信No.52※「脳はサボりたがりで、飽きっぽくできている」を参照してください）ですし、続けることを苦痛に感じるものです。ところが、イチローさんは苦痛には感じないようです。毎日、歯磨きしたり、お風呂に入ったりするのと同じことになっているのです。習慣化すれば、イチローさんと同じことができるかもしれませんが、ほとんどの人は、サボる気持ちが浮かんでしまい、飽きてしまい、苦痛に耐えられず、習慣化するまで続けられません。それを苦もなく続けてきたイチローさんこそ「積み重ねて徹底すること」の見本です。

※昨年度の校長通信は、本校ホームページ【学校だより】→【令和2年度】→【保護者の皆様へ】からご覧いただけます。全号掲載してあります。

イチローさんのオリックス時代の専属バッティングピッチャーだった奥村幸治さんの話です。

「例えば野球の上手な子にアドバイスをすると何をやってもすぐできるようになります。下手な子はなかなか思うようにいきません。ところが、できるようになったうまい子は、いつの間にかその練習をやめてしまうのですが、下手な子は粘り強くそれを続け、いつかはできるようになるのです。そして継続することの大切さを知っている彼らは、できるようになった後もなお練習を続けるため、結局は上手だった子よりも力を付けることが多いのです。その点、イチローは卓越したセンスをもちながらも、野球の下手な子と同じようなメンタリティをもち、ひたすら継続を重ねています。継続する力、つまりルーティンを本当に大切にしているのです。」

イチローさんは、平凡を非凡なまでにやり続けることによって、超一流であり続けました。徹底した努力により、越えられない壁を越えられることを証明してくれたと思います。「才能がないから諦める」のではなく、「才能がないから努力する」のです。それを才能のある一流のイチローさんがやってきたのですから、一流の上の超一流なのです。



子どもたちには、学習や生活において、積み重ねて徹底することの大切さを感じてほしいと思います。各担任をはじめ、本校の教職員は、学習においては基礎・基本の習得を、生活においては学校生活の約束を大切に繰り返し指導しています。1年生の学習や生活の上に、2年生の学習や生活が積み重なります。その上に3年生、4年生と積み重なっていきます。その上に、または、それと同時に、自主性を育て、自己肯定感を高める支援をしています。それが主体性を育てていくことにつながります。

本校の子どもたちは、時間を守ることや整列して話を聞くこと、検診を整然と受けること、玄関の靴をそろえることなどがよくできています。当たり前といえば当たり前のことですが、それを全員ができることが素晴らしいと思っています。こういった基本的なことができる子どもたちが、学級・学年活動や児童会活動をはじめとする創造的で前向きな活動ができるのです。もし、なかなか時間を守れない子どもたちだったら、その指導で手一杯になってしまい、創造的な活動どころではなくなってしまうことはご理解いただけたと思います。

また、ここにあげた、学習面の基礎・基本や基本的な生活は、家庭のご協力やご指導が欠かせません。学習面では、本の「読み」を聞いていただいたり、一緒に「九九」を唱えていただいたりなど、生活面では、あいさつをすることや時間を守ることなどのご指導をお願いしたいと思います。学校では靴をそろえているけど、家庭ではそろえていないというのでは教育の効果は半減してしまいます。

今年度「小笠原小学校のやくそく」をホームページ【学校のひろば】に掲載してあります。ご覧いただき、家庭でできることは、学校と同じ方針でご指導いただけたら、学校と家庭で同じ方針で積み重ねていけるとと思います。

2013年に夏の甲子園で優勝した前橋育英高校の荒井監督の話です。



「毎朝、散歩しながら15分間ゴミ拾いをしているんですけど、今年はそういうこともきちんとできるチームです。本物というのは、そういう平凡なことも、きちんと積み重ねることができるチームのことだと思うんです。」

その荒井監督や前橋育英高校の選手に、強さの理由は何かを聞いてみたところ「特別なことは何もしてません。」

と口をそろえて答えたとのこと。荒井監督は

「当たり前のことを辛抱強く継続できるチームに成長しました。」

と語りました。

毎朝ゴミを拾い、トイレ掃除を率先してやり、玄関の靴をそろえ…と、そういうことを安定してできるチームだからこそ、コツコツとした基礎練習や反復練習を粘り強く続けることができ、本番ですごい力を発揮できたのだと思いました。

沖縄の興南高校を甲子園の春夏連覇に導いた我喜屋監督も、監督に就任したときに、まず、あいさつや整理整頓、時間管理等を徹底するようにしたそうです。毎朝の散歩のときにはやはりゴミ拾いをしたそうです。そして優勝したときにはこう語りました。

「常日頃から、小さいことに全力で取り組むちびっこ軍団が、

大きなことをやってくれました。」

